

審査結果の要旨

論文題目「財の有形性によるネット上の消費者行動の差異-中国の BtoC・EC 市場を対象とする実証的研究-」

学位申請者 陳 森

本学位申請論文に対しては、2 回の審査委員会および口頭試問を経て、2021 年 1 月 13 日に公聴会を実施した。

本論文は、中国の BtoC・EC 市場における消費者の意思決定プロセスに着目し、特に情報探索行為から購買までの作用経路に対して、影響を与える消費者の個人特性の識別および財の有形性の調整作用を明らかにするものである（第 1 章）。まず、消費者の意思決定プロセスを統合的に解釈する従来の代表的モデルを概観し、消費者の意思決定プロセスを規定する影響要素を説明するが、消費者の個人特性やクチコミの作用効果についても考察している（第 2 章）。これに続き、ネット・クチコミ、および財の分類基準に関する概念の定義を論述する（第 3 章）。このネット・クチコミ概念を参考にしつつ、購買決定を行う消費者集団は個人属性上にはどのような特徴があるのかを検討する（第 4 章）。続いて、消費者の個人属性が購買行為に及ぼす影響を明らかにする（第 5 章）。さらに、消費者はネット上で有形財とサービス財を購入する際の購買選択と情報探索行為間の差異を考察する（第 6 章）。以上を踏まえて有形財の代表としての洋服とサービス財の代表としての観光ツアー、それぞれのネット上の購入行為に伴う知覚リスクのタイプを因子分析によって、確認し、情報探索行為に対する各知覚されたリスクのタイプの作用強度と方向について検討し、情報探索行為、ネット・クチコミに対する信頼および購買行為などの潜在要因の因果関係について、共分散構造分析を用いたパラメータの推定結果によって、考察している（第 7 章）。実証研究の結果を踏まえ、中国の BtoC・EC 市場において、財の有形性によるネット上の消費者行動の差異を提示して結論づけている（第 8 章）。

本論文の学術的価値は、主として以下の 3 点において高く評価される。第 1 に、広く文献を渉猟して研究史を精査し、消費者行動研究の欠落領域を明らかにすることで、本論文が消費者行動研究に貢献しうることを明確に示した点である。第 2 に本論文の分析方法の一環として、数理化理論を援用しており、類似した方法の含意を精査しながら、著者の分析ツールとして明確に位置付けた点であり、著者の論理的な考察と分析方法を明確化しようとする学術的努力が高く評価できる。第 3 に、このような手続きによって行われた、中国の BtoC・EC 市場の多角的把握は、調査と的確なその分析に基づいた説得力のあるものであり、特に当該中国の BtoC・EC 市場で新たに誕生し展開しつつある消費者の個人特性を明らかにし、消費者行動一般について今後の方向性を示唆した意義は極めて大である。

以上の結果、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員全員の一致で判定された。

したがって、申請者 陳 森は東海大学博士（文学）の学位を授与されるに値すると判断した。

論文審査委員

主査	博士（農学）	田中 伸彦	観光学部教授（文学研究科文明研究専攻）
委員	経済学修士	立原 繁	観光学部教授（文学研究科文明研究専攻）
委員	博士（歴史・文明学）	平野 葉一	文学部特任教授（文学研究科文明研究専攻）
委員	商学修士	浅野 清彦	政治経済学部特任教授（文学研究科文明研究専攻）
委員	PhD	遠藤 誠二	政治経済学部教授（経済学研究科応用経済学専攻）
委員	修士（商学）	庄司 真人	高千穂大学商学部教授